



海路・諸大名御座船屏風(個人蔵)

企画展 10月9日(土)～11月14日(日)
「海と生きる - 海から見た江戸時代のとっとり -」 2

企画展 11月27日(土)～2011年1月10日(月・祝)
「生誕100年 彫刻家 辻 晋堂展」 3

企画展 2011年2月26日(土)～3月27日(日)
「イラストレーター 毛利彰の仕事」 3

[自然] 観察ガイド「由良御台場(鳥取県北栄町)-バッタ・コオロギたちの楽園-」... 4

資料紹介「最新技術でつくられた鳥取砂丘の地形模型」

[人文] 資料紹介「鳥取藩絵師・沖家伝来の刀」 5

コラム「鳥取県の漁法今昔 - 「鳥取県漁具図解」から -」

[美術] コラム「やっぱり本物を見ると拾える言葉が違うよね」 6

新収蔵品紹介「やなぎみわ《My Grandmothers/MOEHA》」

美術常設展示

[山陰海岸学習館だより] 浦富海岸の地形のなりたち 7

講座・観察会・毎週土曜はアートの日! 8



海と生きる

—海から見た江戸時代のとっとり—

本展覧会は、「海」というキーワードのもと、支配者と海との関わり、物流や交易、漁業を生業とする人々の暮らしなど、江戸時代の鳥取の人々と海との歴史を紹介するものです。

第一章では「鳥取海のあけぼの」と題し、江戸時代以前の鳥取の海の歴史をオムニバスで展示します。近年の県内考古学の成果から、青谷上寺地遺跡の出土品、中世の鳥取の海の歴史を語る上で外せない、鎌倉時代の東郷池周辺(湯梨浜町)を描いた「伯耆国河村郡東郷庄之図」などを紹介します。

第二章「鹿野城主亀井茲矩と朱印船貿易」では、江戸時代の初期、鹿野城主(鳥取市鹿野町)亀井茲矩(写真1)が行った朱印船貿易について取りあげます。朱印船貿易とは、鎖国体制が敷かれる以前、幕府(将軍)の許可を得て東南アジアの国々で行われた交易制度のことです。

第三章「鳥取池田家の海洋政策」では、主に鳥取池田家の水軍・行政組織「御船手」について取りあげます。これまで、ほとんど明らかにされていない、御船手組織の全貌を鳥取藩政資料を中心に紹介します。全長40mに及ぶ鳥取の沿岸部を描いた「因伯海岸絵図」や大名の御座船を描いた「海路・諸大名御座船屏風」(表紙



写真1: 亀井茲矩座像(鳥根県津和野町・永明寺蔵)

写真)など、見応え十分の資料を多数展示します。

第四章「庶民のくらしと海」では、鳥取藩内の湊や海運業、漁業、海に対する信仰などを紹介します。橋津(湯梨浜町)の船乗りたちが使用した多数の船道具、米子の町人が行っていた竹島渡海(現在の鬱陵島。現在の竹島は当時「松島」と呼ばれた)の関係資料、さらに、寺社へ奉納された絵馬や千石船模型(写真2)などを展示し、海と庶民生活について明らかにします。

第五章「異国との出会い」では、豊臣秀吉の朝鮮出兵や郷土と異国を結びつけた漂流民についてとりあげます。朝鮮人、漂流民と鳥取藩領民との交流を示す資料や幕末に太平洋上を53日間漂流しアメリカや中国を見聞した長瀬村(湯梨浜町)利七(写真3)の関係資料を紹介します。



写真3: 長瀬村利七肖像写真(日本カメラ博物館蔵)

第六章「描かれた鳥取の海」では、鳥取の海を描いた屏風や掛軸など名所絵を紹介します。

第七章「幕末の海岸防備」では、欧米列強が盛んに日本列島にやってきた幕末における海岸防備問題を取りあげます。とくに、ペリー来航の嘉永6年(1853)以降に立て続けに命じられた、江戸湾の本牧(横浜市)や品川(品川区)台場、さらに大坂湾の天保山警備(大阪市)のほか、文久3年(1863)鳥取藩領内に建造された台場について紹介します。

エピソードでは、幕末から明治期の海をめぐる生活の変化を取りあげます。そのひとつが、明治45年(1911)に鳥取県内を横断する山陰本線の



写真2: 天保年間の奉納棟札を持つ御船(鳥取市・賀露神社蔵)

開通です。鉄道開通はモノやヒトの流れをそれまでの「海」から「陸」へ大きく変えるきっかけとなりました。

今回の展覧会では、「海」が現代よりも身近な存在であった江戸時代の鳥取の人びとの生き様を明らかにすることを通じ、これまであまり知られなかった鳥取の歴史に迫ります。ぜひ、企画展「海と生きる」にご来場下さい。

(学芸課 大嶋 陽一)

- 会期 10月9日(土)～11月14日(日) 無休
- 会場 2階第1・2・3特別展示室
- 入館料 個人当日/600円
個人前売、20名以上の団体/400円
大学生以下、70歳以上、学校教育活動での引率者、障がいのある方、要介護者等およびその介護者/無料
- 関連事業
 - 講演会「中世の山陰海運と鳥取の港」
10月17日(日)午後2時～3時30分 講堂(無料)
講師: 錦織勤氏(鳥取大学教授)
定員: 250名(申込不要・先着順)
 - 講演会「因幡・伯耆の人々と異国認識」
11月3日(水・祝)午後2時～3時30分 講堂(無料)
講師: 池内敏氏(名古屋大学教授)
定員: 250名(申込不要・先着順)
 - 歴史講座「海と生きる
—江戸時代・鳥取の海とその歴史—」
 - ①10月10日(日)午後2時～3時30分
倉吉未来中心セミナールーム3(無料)
 - ②10月11日(月・祝)午後2時～3時30分
米子市文化ホール(無料)
 - ③10月31日(日)午後2時～3時30分
鳥取県立博物館講堂(無料)
講師: 大嶋陽一(当館学芸課)
定員: ①150名、②70名、③250名
(申込不要・先着順)
 - ギャラリートーク
10月23日(土)、11月6日(土)、11月13日(土)
午前11時～特別展示室(要入場料)
定員: なし(申込不要)

生誕100年 彫刻家 辻 晋堂展

- ・1957年「第4回サンパウロ・ビエンナーレ」(ブラジル)
- ・1958年「第29回ヴェネツィア・ビエンナーレ」(イタリア)
- ・1958年「七人の彫刻家－彫刻とドローイング」(アメリカ、グッゲンハイム美術館)
- ・1966年「第3回国際現代彫刻展」(フランス、ロダン美術館)

ここに挙げたのは、鳥取県日野郡二部村(現・伯耆町)出身の彫刻家・辻晋堂(つじ・しんどう1910年～1981年)が招待作家として参加した欧米の美術展覧会のうち、大規模なものデータのデータです。なかでもヴェネツィア・ビエンナーレは、昨年行われた第53回展に日本代表として選出されたやなぎみわ氏の斬新な大作が記憶に新しいところですが、誰が選ばれるのか、どんな作品が発表されるのかが常に話題となる美術界注目のイベントです。そんな展覧会に辻は、当時の日本代表のひとりとして選ばれたのです。

辻は1931年に上京し、戦前・戦中は清々しい魅力に満ちた木彫りの肖像彫刻を中心に制作。戦後は、京都市立美術専門学校(現・京都市立芸術大学)の指導者として京都に赴任し、身近にあった焼きもの用の粘土を素材に、独自の抽象的な表現へ

と向かいました。陶土と炎による大胆な「陶彫」は、従来の彫刻とは異なる新しい造形理念を開拓しようとするものとして注目を浴び、1958年のヴェネツィア・ビエンナーレに《牡牛(牛)》(=写真)などを発表、国際的な評価を受けることとなりました。

しかし今、鳥取県でも、とくに辻没後に生まれた世代の方々の「辻晋堂認知度」は決して高くはないと思います。当館や米子市美術館なども、折を見て辻の仕事を紹介し続けているのですが。鳥取県出身で辻ほどに国際的な活躍をした表現者は稀ですから、やはり今一度辻晋堂という存在に光を当てたい。そのため、辻の生誕100年にあたる今年、当館では、国内の美術館および個人が所蔵する代表作を中心とした約120点の辻作品によりその全体像を紹介します。サンパウロやヴェネツィアに出品した作品などを存分にご覧いただく



辻 晋堂《牡牛(牛)》1958年 陶彫 東京都現代美術館蔵

またとない機会ですので、どうぞ期待ください。

(美術振興課 三浦 努)

- 会 期 11月27日(土)～平成23年1月10日(月・祝)
年末年始(12/29～1/3)は休館
- 会 場 2階第1・2・3 特別展示室
- 料 金 個人当日/1000円
個人前売、20名以上の団体/800円
大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障がいのある方、要介護者等およびその介護者/無料
- 関連行事
○パネルディスカッション
「師を語る～辻晋堂が現代に投げかけるもの」
11月27日(土)午後2時～午後3時30分 講堂(無料)
パネラー：山崎脩氏(やまざきしゅう 1929年～ 彫刻家、京都市立芸術大学名誉教授)
宮永理吉氏(みやながりきち 1936年～ 陶芸家、三代宮永東山)
青木正弘氏(あおきまさひろ 1947年～ 美術評論家、元・豊田市美術館副館長)
定員：250名(申込不要・先着順)

シリーズ鳥取の表現者File.02

イラストレーター 毛利彰の仕事

鳥取市生まれの毛利彰(もうり・あきら1935年～2008年)は、鳥取大丸宣伝部を経て、1957年新宿伊勢丹宣伝部に入社し、ファッションイラストレーションを担当し、伊勢丹の顔と評価されました。独立後は、「歴史群像シリーズ」や「火の鳥」など多くの書籍の表紙や新聞・雑誌の挿絵、ポスター、広告など多方面で活躍し、1990年には講談社出版文化賞さし絵賞を受賞しました。

本展では伊勢丹時代から晩年までの作品を中心に、毛利彰の仕事を紹介します。(美術振興課 門脇 博)

- 会 期 平成23年2月26日(土)～3月27日(日) 無休
- 会 場 2階第1特別展示室
- 入館料 個人当日/500円
個人前売、20名以上の団体/300円
学生以下、他/無料

■関連行事

- 特別講演会「毛利彰の大衆性(仮題)」
3月6日(日)午後2時～午後3時30分 講堂(無料)
講師：小谷有弘氏(武蔵野美術大学名誉教授)
定員250名
- アートセミナー「毛利彰の作品と描画技法」
3月19日(土)午後2時～午後3時30分 講堂(無料)
定員250名
- ワークショップ「立体絵画をつくろう！」
3月26日(土)午後2時～午後4時 会議室
(定員30名、要申込・要参加費)
- ギャラリートーク
3月5日(土)、12日(土) 各日午後2時～午後2時30分
特別展示室(要入場料)・定員なし



毛利彰《POSTER 1966 伊勢丹》個人蔵

観 察 ガ イ ド

ゆ ら お だい ば

由良御台場—バッタ・コオロギたちの楽園—

(鳥取県北栄町)

「由良御台場」は、尊王攘夷運動が高まる文久3年(1863年)に、鳥取藩により造られた海岸防備のための砲台です。西洋式の城塞プランが取り入れられた台場として、全国的にも貴重なものであり、国の史跡になっています。

現在は、「お台場公園」として憩いの場にもなっていますが、少し足元にも目を向けてみてください。季節は夏から秋がよいです。虫たちがたくさん飛び跳ねています。これらの中に、体長が1cmに満たない、黄色っぽいコオロギがみられます。「カヤコオロギ」といい、文字どおり茅場にいます。チガヤが多く、所々にススキが生えるような、明るい草原でないと生きていけません。このような草原は、茅場や河川敷などにみ

られますが、私たちの生活が便利になっていくと同時に、近年はほとんどなくなりました。しかし、由良御台場は、春先に火入れ(野焼き)を行うなどの管理がなされており、チガヤの生える草原となっています。

カヤコオロギは、多くの都府県で絶滅が心配されており、鳥取県でも確実な生息地は2カ所ほどしか確認されていません。由良御台場では、他にもショウリョウバッタモドキなどの草原に暮らす希少なバッタ・コオロギ・キリギリスがたくさんみられ、彼らの「楽園」となっています。姿だけでなく、秋の夜



秋の由良御台場
(北栄町お台場公園)



カヤコオロギ *Euscirtus japonicus*
♀(マツムシ科)

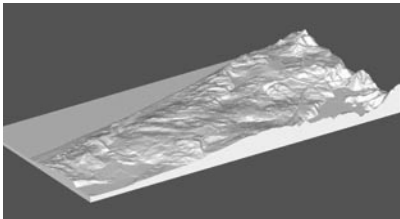
長には虫の鳴き声を楽しむのも、由良御台場の楽しみ方のひとつとしてお薦めします。

(学芸課 川上 靖)

■アクセス:国道9号の「道の駅大栄」横
(鳥取県東伯郡北栄町由良宿1458-16)

資 料 紹 介

最新技術でつくられた鳥取砂丘の地形模型



製作前の模型イメージ画像

山陰海岸ジオパークの主要なジオエリアである鳥取砂丘は、正式には東西16km、南北2.4kmにおよび、東側から福部砂丘、浜坂砂丘、湖山砂丘、末恒砂丘の4つに分けられています。一般に「鳥取砂丘」と呼ばれているのは、天然記念物に指定され、観光砂丘になっているところ(146.2ha)で浜坂砂丘の一部になります。

当館では、この天然記念物指定地域の「鳥取砂丘」を中心に、その貴重で魅力的な地形を紹介するため、このたび、最新の技術を用いて「鳥取砂丘地形模型」を製作しました。

鳥取砂丘を訪れると、最初に目につくのは砂丘の中にそびえ立つ「馬

の背」と呼ばれる標高47mの連続した砂の高まり(砂丘列)です。一方、鳥取砂丘には「追後スリバチ」に代表される湾曲した急傾斜に囲まれた大きなほみ(凹地地形/スリバチ)もあります。鳥取砂丘の地形模型の製作では、このように鳥取砂丘が他の海岸砂丘よりも起伏が大きく、砂丘列やスリバチといった独特な地形が発達していることを理解しやすくするため、鉛直方向の標高を通常の2倍に強調しました。この倍率は実際に砂丘を訪れた際に感じる迫力ある起伏に近い表現となっています。また、より実際の地形に近づけるために3D地形測量データを取り寄せ、最新のコンピュータ制御の切削装置で製作しました。

砂丘の地面を見ると、海岸部から内陸部に行くほど灰色から黄色に変化します。これは砂丘の砂は海岸部から内陸部に行くほど古いためです。模型では表面の砂の色にグラデーションを付け、この砂丘の色も再現しています。この他、鳥取砂丘

の中には湧水池(通称「オアシス」)や大山から飛来した火山灰層がむき出しになった地点(火山灰露出地)がありますが、この場所も航空写真データを利用して、はっきりと表しました。

その他、小さなお子さんや車いすで観覧される方にもよく見ていただけるように、模型台の高さを低くし、手前に約10度の傾斜を付けました。

ぜひ、この精巧につくられた模型をご覧いただき、鳥取砂丘の地形について理解を深めていただければ幸いです。

(学芸課 山口 勇人)



製作した鳥取砂丘地形模型

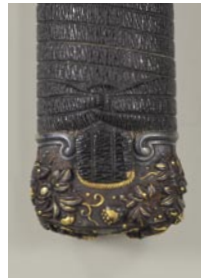
鳥取藩絵師・沖家伝来の刀

写真の刀は、鳥取藩士の沖家に伝わったものです。沖家は、初代清信が、寛文8年(1668)に五人扶持で召し抱えられてから、八代探三(守固・九臯)に至るまで、代々江戸詰の絵師として活躍した家です。とりわけ多様な画風の作品を残し、名声を得た七代一峨は、鳥取藩を代表する絵師といっています。

さて、そうした沖家に伝来した刀は、茎が先端から擦り上げられてはいますが、刃長が2尺4寸5分(74.8cm)ほどあり、鑄の巾や刃文の特徴から、大和国(奈良県)の刀工が南北朝時代頃につくった可能性が考えられます。刃文は、直刃調の小互ノ目で、沸えが厚く付き、金筋、砂流し、湯走りなど、多様な変化を見せています。鍛えは、美しく練り鍛え

られ、柃目が強く、処々で板目流れになっています。

この刀を収めた拵は、藩絵師としては意外と思えるほど渋い味わいのもので、革包の鞘は黒漆を塗って仕上げられています。拵の縁と頭は、草花図を緻密な高彫象嵌で仕上げられています。縁の鐺側には「應好乙柳軒味墨(花押)」と作者の銘が刻まれています。乙柳軒味墨は江戸金工の代表格である浜野派が用いた号で、この銘は、江戸後期に活躍した四代浜野政信のもので、「應好」とあるように、沖家の好みに応じてつくられた合作の

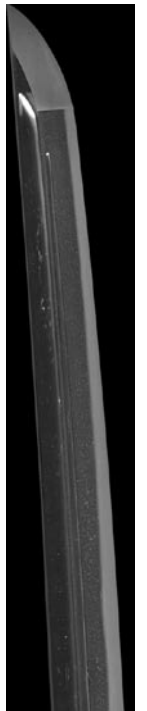


拵の頭

可能性が考えられます。政信と同時代を生きた沖家の当主は、五代探高(文政5年歿)、六代探容(天保10年歿)、七代一峨(文久元年歿)の3人ですが、交友関係や人脈の広さという点から考えると、一峨が注文主であった可能性が高そうです。

いずれにしても、鳥取藩を代表する絵師の美意識を垣間見ることができる貴重な資料といえるでしょう。

(学芸課 来見田 博基)



沖家伝来の刀(無銘)

コ ラ ム

鳥取県の漁法今昔 - 「鳥取縣漁具圖解」から -

旬である夏は終わりましたが、県内のスーパーマーケットでは、今年もシイラ(伯耆地方ではマンサクともいう)の切り身が販売されていました。身に脂質が少ないことから傷みが早いとされ、焼きものや揚げものなどで食べられがちですが、新鮮な薄紅色をした刺身は滅多に食べられない美味です。

さて、シイラは古くから、漂流物の陰に集まる性質を利用した「シイラ漬け」によって捕られてきました。現在、酒津、赤碕地区でまき網による漁法が続けられています(県水産試験場HP「鳥取県の漁業(漁具・漁法)」下写真も)。

一方、「鳥取縣漁具圖解」東京海洋



大学附属図書館 所蔵、右写真)という資料によると、明治後期(網漁以前)は、シイラ(原文では「鰮」と表記)は針で釣っていたことが分かります。

第三十三号 鰮釣

陸ヲ距ル五里乃至十七八里深サ凡貳百四十尋。漁法ハ先ツ第二図ノ如キ方言鰮漬ヲナシ、海面二陰影ヲ造ルトキハ魚ハ此陰所ニ群集ス。是ニ於テ一舟漁夫五人乗込ミ第一図ノ針ニ尚ホ麻苧ヲ以テ製シタル釣糸ヲ付シ四人ノ漁夫之ヲ漁ス。季節ハ夏土用ヨリ秋土用マテ早暁ヲ宜シトス。但餌料ハ生鳥賊。

この他、同資料の中には、若狭(現福井県)から伝わった漁法とされるはえ縄の一種、「岩井郡(現岩美郡岩美町)網代田後ノ二ヶ村ヲ以テ最トス」鰯縄や「會見郡(現米子・境港市周辺)内海ニ於テ用ユ」赤貝採取具(楯)などの漁具・漁法が記述されています。



「鳥取縣漁具圖解」中のシイラ釣

10月の企画展「海と生きる一海から見た江戸時代のとっとり」では、この資料を展示して、鳥取県の江戸時代の漁業を紹介します。展示室の中で、現在では無くなってしまった漁法、今も伝わる伝統的なものなど、鳥取県の漁業形態を見つめ直してみたいかがでしょうか。

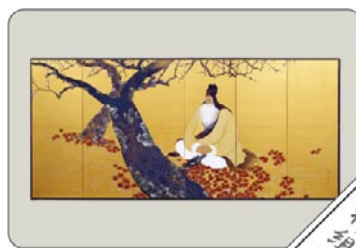
(学芸課 福代 宏)

やっぱり本物を見ると拾える言葉が違うよね。

「毎週土曜はアートの日」のスペシャルイベントとして7月3日に開催した、スペシャルアートレクチャー「鑑賞をとおして子どもと育つ」の講演で紹介された子どものつぶやきです。教室での図版を使った鑑賞の後、子どもたちは美術館で本物の絵の前に立ちます。間近に見る絵の具の色、作家の筆の跡、画面の上の量感。子どもの心に強く響く様々な要素が、本物の絵の中には詰まっていた。

さて、この夏、当館では夏休みの企画展として「展覧会で見るアート

カルタ」を開催しました。「アートカルタ」とは当館が所蔵する作品50点をカルタの絵札にした鑑賞教材で、遊びをとおして美術作品に親しんでいただくという目的で制作しました。カルタになった絵を見ながら読み札をつくるワークショップも学校や公民館などで行っています。これまでに4000人以上の方がオリジナルの読み札をつくり、自分だけのカルタを持ち帰られました。その、



小早川秋聲《薫風屏風(右隻)》
鳥取県立博物館蔵



カルタのもととなった作品を展示しました。

(美術振興課 佐藤 真菜)

新 収 蔵 作 品 紹 介

やなぎみわ《My Grandmothers / MOEHA》

やなぎみわは現在、もっとも注目される若手作家の一人です。昨年ヴェネツィア・ビエンナーレの日本代表に選ばれて世界の舞台に立ち、国内でも国立国際美術館などで大規模な個展を開きました。やなぎは一つの情景を作り出して、それを写真に収めるコンストラクテッド・フォトという手法によって作品を制

作します。この作品は現在26点制作されている「マイ・グランドマザーズ」というシリーズの最新作となります。「マイ・グランドマザーズ」は50年後にどうありたいかと問われた若い女性が、やなぎと語らう中で自分にとっての理想の老女像に具体的なかたちを与え、そのイメージをもとにやなぎがモデルを用いて作品を制作するものです。若い恋人が操るバイクのサイドカーで高笑いをする老女、旅客機のシートから窓の外を眺める老女、肘掛け椅子に座って子供たちの手相を見る老女、いくつもの魅力的、時に不気味な情景の中心を占める老女の姿は見る者に強い印象を与えます。

今回収蔵した《MOEHA》はこのシリーズの最新作です。明るい光のもと、風紋の広がる砂丘のうえで黄色いショールを手に優雅に踊る老女からは生きることのみずみずしい喜びが伝わってくるようです。このシリーズはいずれも一種の匿名性を持ち、作品の舞台も特定されていませんが、実はこの作品は鳥取砂丘でロケされました。やなぎはヴェネツィア・ビエンナーレに出品した「老少女劇団」と呼ばれるビデオ作品も鳥取砂丘でロケしており、鳥取砂丘という風土に触発されて、彼女の代表作とも呼ぶべき優れた作品が次々に制作されたといえるでしょう。

(美術振興課 尾崎 信一郎)



やなぎみわ 《My Grandmothers / MOEHA》
2009年 レーザージェットプリント、アクリル

美術常設展

1F 美術常設展示室

鳥取県ゆかりの江戸時代から現代までの美術作品を展示しています。

コレクション展Ⅱ	9月23日(木・祝)～12月5日(日)
コレクション展Ⅲ 君野コレクション展	12月8日(水)～2月20日(日)
コレクション展Ⅳ	2月23日(水)～4月28日(木)

※途中展示替えのため、以下の日は休室します。
11月1日(月)、1月17日(月)、3月28日(月)

2F 近代美術展示室

橋本興家「日本の城」併設：新収蔵品コーナー
2月3日(木)～2月27日(日)

ライフワークとして取り組んだ「日本の城」シリーズを中心に、明快で色彩豊かな橋本興家の版画作品を紹介します。

また、同室に新収蔵品コーナーを併設し、平成21年度収集した作品を紹介します。

浦富海岸の地形のなりたち



浦富海岸(網代～田後)

山陰海岸学習館では、山陰海岸ジオパークの魅力を伝えるイベントを実施しています。10月24日(日)には『山陰海岸ジオハイキングと貝殻拾い～城原海岸と鴨ヶ磯海岸編～』と題し、浦富海岸内の城原海岸と鴨ヶ磯海岸でハイキングしながらジオスポットの見学をしたり、貝殻拾いを行います。

浦富海岸は、岩美町大谷の駒馳山から岩美町陸上の陸上岬までの東西約15km、つまり岩美町の海岸線のことで、国の名勝および天然記念物となっています。浦富海岸には千貫松島、鴨ヶ磯、城原海岸など有名な景勝地がありますが、これらはすべて花崗岩地域にあります。実はこのように花崗岩が分布する場所と景勝地が重なり合うことには、地質学的な理由がきちんとあります。浦富海岸に分布する花崗岩には特徴的に、周りから力を受けることで形成された「節理」や「断層」と呼ばれる割れ目が数多くみられます。その割れ目の中でも、割れ目に沿って周囲の岩石が動いたものを「断層」、動いていないものを「節理」と呼んでいます。しかしそれぞれの割れ目の方向には大きな違いがあり、節理の多くは北西から南東方向に向かって走っているのに対し、断層の方向は北東から南西方向と節理の方向に

ほぼ直交します。節理や断層は他の部分に比べて侵食されやすいので、日本海の荒波はこの規則正しいミシン目に沿うように花崗岩を削り、結果的に入り江、岬、小島が複雑に

組み合わさった非常に美しい海岸ができあがりました。そこにみられる海食洞、海食洞門、離れ岩などと呼ばれる独特な形をした海食地形もこのような割れ目に沿ってつくられています。また、花崗岩の割れ目には松が生え、入り江には花崗岩が波で削られてできた白い砂がきらめき、まるで箱庭のようです。

今回、浦富海岸の地形のなりたちを紹介しましたが、このような美しい地形や岩石だけでなく、ふだん目にする路傍の石にも、それがそこにある『理由』が必ずあり、地球の長い歴史を解き明かす鍵となります。そして、それらの謎を一つずつ調べ、新しい事実を発見することこそが、地学の醍醐味です。みなさんもこのハイキングに参加して、浦富海岸の美しい自然を楽しみながら、そこに秘められた数多くの謎を解き明かしてみませんか？

(山陰海岸学習館 徳田 悠希)



リズムカルな節理と千貫松島

■ 普及活動一覧(9月～3月)

《野外観察会》

「砂浜でくらす魚の赤ちゃん調べ

～地曳き網調査体験～

9月12日(日)午後1時～5時 場所/熊井浜
対 象:小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員:30名(先着順) 申込開始:8月29日(日)

《野外観察会》

「山陰海岸ジオハイキング～羽尾岬編～」

9月26日(日) 午前10時～午後2時

場所/羽尾岬(熊井浜・龍神洞)～

円山(流紋岩岩脈)

対 象:小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員:30名(先着順) 申込開始:8月29日(日)

《野外観察会》

「山陰海岸ジオハイキングと貝殻拾い

～城原海岸・鴨ヶ磯海岸編～

10月24日(日) 午前10時～午後3時

場所/鴨ヶ磯、城原海岸

対 象:小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員:30名(先着順) 申込開始:10月10日(日)

《自然講座》

「山陰海岸ジオパーク講座

～鳴り砂の観察と実験～

11月7日(日) 午後1時～3時

場所/山陰海岸学習館体験学習室と牧谷海岸

対 象:小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員:30名(先着順) 申込開始:10月24日(日)

《自然講座》

「海藻おしばでオリジナルカードをつくる」

12月19日(日) 午後1時～3時

場所/山陰海岸学習館

対 象:小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員:30名(先着順) 申込開始:12月5日(日)

《野外観察会》

「打ち上げ貝で宝さがし

～さまざまな形や色を楽しむ～

3月27日(日) 午前9時～12時 場所/城原海岸

対 象:小・中学生～一般(小学生は保護者同伴)
定 員:30名(先着順) 申込開始:3月13日(日)

※申し込みはお電話で。(0857)73-1445

鳥取県立博物館付属

山陰海岸学習館

San'in Kaigan Nature Museum



■入 館 料:無料

■開館時間:9時～17時(入館は16時30分まで)

■休 館 日:毎週月曜日

(祝日の場合は翌平日が休館日)

国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)

年末年始(12月29日～1月3日)

【お問い合わせ】〒681-0001

鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4

電話・FAX:0857-73-1445

http://site5.tori-info.co.jp/~museum/gakusyukan/

2010 10 OCT.	《ワークショップ》 パブリックアート探検	■10月2日(土)10:00~16:00/会議室他 ■小学生~一般/定員40名(要申込・先着順) ※申込期間9月18日~
	《天体観望会》 秋の星を見る会	■10月2日(土)雨(曇)天時は10月9日(土) 18:30~20:30/前庭 ■小学生~一般/定員なし(申込不要)
2010 11 NOV.	《アートシアター》 絵画を読む	■10月9日(土)14:00~14:30/講堂 ■小学生~一般/定員250名(先着順)
	《講演会》 海と生きる -江戸時代・鳥取の海とその歴史-	■10月10日(日)14:00~15:30 ■一般/定員150名(申込不要・先着順)
2010 11 NOV.	《講演会》 海と生きる -江戸時代・鳥取の海とその歴史-	■10月11日(月・祝)14:00~15:30 ■一般/定員70名(申込不要・先着順)
	《野外観察会》 おちばの中のモンスターを さがそう！ in 氷ノ山	■10月16日(土)13:00~16:00/ 氷ノ山自然ふれあい館「響の森」および周辺の林 ■小学生~一般/定員20名 ※申込みは「響の森(0858-82-1620)」へ4月1日~
2011 1 JAN.	《アートセミナー》 ジョルジョ・モランディ展について	■10月16日(土)14:00~15:30/会議室 ■高校生~一般/定員40名(申込不要・先着順)
	《講演会》 中世の山陰海運と鳥取の港	■10月17日(土)14:00~15:30/講堂 ■一般/定員250名(申込不要・先着順)
2011 1 JAN.	《野外観察会》 きのこを調べる会	■10月23日(土)10:00~14:00/とっとり出会いの森 ■一般/定員30名(要申込・先着順) ※申込期間9月30日~
	《ギャラリートーク》 海と生きる	■10月23日(土)11:00~12:00/特別展示室 ■一般/定員なし(申込不要) ※観覧料が必要です
2011 1 JAN.	《アートシアター》 パウハウス 20世紀の顔	■10月23日(土)14:00~15:00/講堂 ■中学生~一般/定員250名(先着順)
	《アートシアター》 魂の遍歴画家 ゴッホ・ゴーギャン	■10月30日(土)14:00~14:30/講堂 ■中学生~一般/定員250名(申込不要)
2011 2 FEB.	《講演会》 海と生きる -江戸時代・鳥取の海とその歴史-	■10月31日(日)14:00~15:30/講堂 ■一般/定員250名(申込不要・先着順)
	《講演会》 因幡・伯耆と異国認識	■11月3日(水・祝)14:00~15:30/講堂 ■一般/定員250名(申込不要・先着順)
2011 2 FEB.	《アートセミナー》 鳥取の洋画①	■11月6日(土)14:00~15:30/会議室 ■高校生~一般/定員40名(先着順)
	《ギャラリートーク》 海と生きる	■11月6日(土)11:00~12:00/特別展示室 ■一般/定員なし(申込不要) ※観覧料が必要です
2011 2 FEB.	《野外観察会》 コケ・スポット・ウォーキング	■11月7日(日)10:00~14:00/会議室・県庁周辺 ■一般/定員15名(要申込・先着順) ※申込期間10月14日~
	《ギャラリートーク》 海と生きる	■11月13日(土)11:00~12:00/特別展示室 ■一般/定員なし(申込不要) ※観覧料が必要です
2011 3 MAR.	《アートシアター》 ポロック ふたりだけのアトリエ	■11月13日(土)14:00~16:20/講堂 ■高校生~一般/定員250名(先着順)
	《アートシアター》 造形のみかた	■11月20日(土)14:00~14:30/講堂 ■中学生~一般/定員250名(先着順)
2011 3 MAR.	《歴史講座》 拓本を採る	■11月21日(日)13:30~15:30/会議室 ■小学校高学年以上(小学生は保護者同伴)/定員20名 ※(要申込・先着順) ※申込期間11月5日~11月19日
	《講演会》 幕末の鳥取藩-異国船と海岸防備-	■11月23日(火・祝)14:00~15:30/講堂 ■一般/定員250名(申込不要・先着順)
2011 3 MAR.	《パネルディスカッション》 師を語る ~辻堂が現代に投げかけるもの	■11月27日(土)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/定員250名(先着順)
	《講演会》 「龍馬伝」と時代考証	■11月28日(日)14:00~15:30/講堂 ■一般/定員250名(申込不要・先着順)

2010 12 DEC.	《野外観察会》はじめての バード・ウォッチング in 湖山池	■12月4日(土)9:00~12:00/鳥取市湖山池青島 ■一般/定員20名(要申込・先着順) ※申込期間11月11日~
	《アートセミナー》 オブジェとは何か	■12月4日(土)14:00~15:30/会議室 ■高校生~一般/定員40名(申込不要・先着順)
2011 1 JAN.	《歴史講座》 古文書を読む会(秋の陣)(2回)	■12月5日・19日(日)14:00~15:30/会議室 ■一般/定員30名(申込不要)
	《ギャラリートーク》 「生誕100年 彫刻家 辻 晋堂展」	■12月11日(土)14:00~15:00/特別展示室 ■高校生~一般/定員なし ※観覧料が必要です
2011 1 JAN.	《ワークショップ》 やきものでつくる！ ワタシのなかの夢の国	■12月18日(土)1回目9:30~12:00 2回目13:30~16:00/会議室他 要参加費 ■小学生~高校生/定員1回につき10名(要申込) ※申込期間12月4日~
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会	■12月19日(日)14:00~15:00/常設展示室内飯元民家 ■一般/定員なし ※観覧料が必要です
2011 1 JAN.	《講演会》 「鳥取の埴輪」	■12月23日(木・祝)14:00~15:30/講堂 ■一般/定員250名(申込不要・先着順)
	《ギャラリートーク》 「生誕100年 彫刻家 辻 晋堂展」	■12月25日(土)14:00~15:00/特別展示室 ■高校生~一般/定員なし ※観覧料が必要です
2011 1 JAN.	《アートセミナー》 辻 晋堂のパブリックワーク	■1月8日(土)14:00~15:30/会議室 ■高校生~一般/定員40名(申込不要・先着順)
	《アートシアター》 芸術家と社会	■1月15日(土)14:00~15:30/講堂 ■中学生~一般/定員250名(先着順)
2011 1 JAN.	《講演会》 曲げる・編む民俗技術 -枝・根・皮・つるの利用-	■1月16日(日)14:00~15:30/講堂 ■中学生~一般/定員250名(申込不要・先着順)
	《アートシアター》 意識の変革 シュルレアリスム	■1月22日(土)14:00~14:30/講堂 ■中学生~一般/定員250名(先着順)
2011 2 FEB.	《歴史講座》 弥生のカゴを編む	■1月23日(日)10:00~16:00/会議室 ■小学校高学年以上(小学生は保護者同伴) /定員20名(要申込・先着順) ※申込期間12月24日~1月13日
	《ワークショップ》 型どりアートに挑戦！②	■1月29日(土)14:00~17:00/会議室 ■幼児~一般/定員30名 ※申込期間1月15日~
2011 2 FEB.	《アートシアター》 抽象に至る道 主題から形式へ	■2月5日(土)14:00~14:30/講堂 ■中学生~一般/定員250名(先着順)
	《ギャラリートーク》 「橋本興家『日本の城』」	■2月12日(土)14:00~14:30/近代美術展示室 ■高校生~一般/定員なし ※観覧料が必要です
2011 2 FEB.	《アートシアター》 絵画からデザインへ アールヌーボー様式	■2月19日(土)14:00~14:30/講堂 ■中学生~一般/定員250名(先着順)
	《ギャラリートーク》 「橋本興家『日本の城』」	■2月26日(土)14:00~14:30/近代美術展示室 ■高校生~一般/定員なし ※観覧料が必要です
2011 3 MAR.	《ギャラリートーク》 「イラストレーター 毛利彰の仕事」	■3月5日(土)14:00~14:30/特別展示室 ■高校生~一般/定員なし ※観覧料が必要です
	《歴史講座》 古文書を読む会(冬の陣)(2回)	■3月5日・19日(日)14:00~15:30/会議室 ■一般/30名(申込不要)
2011 3 MAR.	《講演会》 「毛利彰の大衆性(仮)」	■3月6日(日)14:00~15:30/講堂 ■一般/定員250名(先着順)
	《ギャラリートーク》 「イラストレーター 毛利彰の仕事」	■3月12日(土)14:00~14:30/特別展示室 ■高校生~一般/定員なし ※観覧料が必要です
2011 3 MAR.	《歴史講座》 城下町ウォーク in 湯所	■3月19日・26日(土)10:00~12:00/鳥取市湯所周辺 ■一般/各20名(要申込・先着順) ※申込期間2月22日~
	《アートセミナー》 毛利彰の作品と描画技法	■3月19日(土)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/定員250名(先着順)
2011 3 MAR.	《ワークショップ》 立体絵画をつくろう！	■3月26日(土)14:00~16:00/会議室 ■小学生~一般/定員30名 ※申込期間3月12日~

※特に記載のないものは申込不要です。※講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。
※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。※申し込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。

鳥取県立博物館ニュース MUSEUM PRESS No.10

平成22年(2010年)9月30日発行
編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)
FAX 0857(26)8041
URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp



JR鳥取駅からバスで

100円バス「くる梨」青コース
「⑤仁風閣・県立博物館」下車すぐ
ブルー麒麟獅子Aコース(土・日・祝日のみ)
「④鳥取城跡」下車すぐ
砂丘・湖山・賀露方面行
「西町」下車約400m
市内回り岩倉・中河原方面行
「わらべ館前」下車約600m



■JR鳥取駅からタクシーで約10分
■当館駐車場21台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください)

MORRIX 株式会社 モリックスジャパン
鳥取市商栄町203-6
TEL 0857-23-3641

引越しは日通
フルサービス ひっこし は にっつう
0120-154022